

令和２年度第１回はんだ環境パートナーシップ会議録

開催日時	令和２年６月２５日（木）　　９時３０分～１１時３０分					
開催場所	半田市役所３０１・３０２会議室					
会議次第	１．あいさつ ２．議事 （１）半田市環境基本計画推進状況（令和元年度実績）の評価について （２）第２次半田市環境基本計画の策定スケジュールについて ３．その他					
出席委員 ※敬称略	会長	千頭　　聡				
	委員	藤田　純代		平林　明美	成田　辰也	
		船橋　正巳		桑田　八重子	牧野　純子	
		近藤　倉治		榊原　正躬	澤田　和孝	
欠席委員　※敬称略		石川　由弘		和喜田　恵介	神戸　繁明	
出席職員	事務局	部長	滝本　　均		課長	大嶽　浩幸
		副主幹	鳥居　高宏		主査	森下　直孝
		主事	青木　大介			

次 第	議 事 概 要 各委員の発言は、市民・団体の代表としての発言ではなく、あくまで個人としての発言です。
1. あいさつ	－市民経済部部長あいさつ－（略） －会長あいさつ－（略） 部長退席
2. 議事	（１）半田市環境基本計画推進状況（令和元年度実績）の評価について －事務局資料に沿って説明－ （事務局） 委員個人の評価・意見を資料１にまとめています。 これを基に、パートナーシップ会議として、「評価できる点・評価できない点」、「期待したい点」、「問題と思われる点」、「提案事項」を本日まとめてください。 また、柱ごとの４段階評価も本日まとめてください。 本日まとめていただいた意見は、第２回会議の前にまとめ、委員のみなさまに提示します。それを基に、委員個人の提案をいただき、第２回会議で、パートナーシップ会議としての提案としてまとめます。 なお、資料２については、委員のみなさんに事前に質問をいただいたことに対して、各課の回答を取りまとめたものになり

ます。

本日会議内でまとめていただく際は、提案につなげるため、『「Aのことは評価できる」ので「Bのことに期待したい」、そのために、「Cを提案する」』、『「Aのことは評価できない」ので「Bのことが問題だ」、その解決策として、「Cを提案する」』という流れを意識していただきます。

(千頭会長)

まずは、柱1について、ご意見ありますか。

(近藤委員)

道路が変わることによって車の流れが変わってきて、トラックによる振動で道路が傷んでいるところが至る所にある。その振動対策というのは、確かに騒音は減っているような気がするが、やはり新たな対策、自動車による対策みたいなものを入れた方がいいのではないかと思います。

(千頭会長)

文章化して次回までに再度皆様方にお返しする。

(榊原委員)

まず事務方が自分たちの評価を立てたものを僕らに資料とし

てくれているわけだが、その評価、よく頑張っているからAでいいというところもある。だけど、市の職員として、その頑張りが、通常なのか、通常よりもプラスアルファの頑張りののかというのは、こちらでは判断できない。

(千頭会長)

市の施策の評価なのか、結果としての半田の状況を、満足度的に評価をするのか。

(事務局)

結果に対しての評価というふうでお考えいただきたいと思っています。

(近藤委員)

大気汚染の問題というのは、測定地点は固定されている。そこで基準より劣る場合大問題である。測定後でわかるのだから、そういう点では市は固定しておくのではなくて、季節によって、あるいは車の流れによって大気も変わってくるから、移動で測定するというのも一つの方法だと思う。直近の問題として石炭火力が武豊にできるというなかで、それに関する大気、半田はどういうふうを受け止めて対策をとっていくかそういう姿勢がほしいという思いがある。

(千頭会長)

それも課題としてあげておいてください。

柱1の評価は、全体としては「A」としてよろしいか。

《異議なし》

(千頭会長)

ただし、AかBかが最大の問題ではなくて、皆さんから出しているコメントの方が大事だということを市長にもお伝えする。続いて柱2に移ります。

(桑田委員)

以前、環境パートナーシップ会議推進部会の方で担当していた、もったいないバザールについて、今年度で終わるということを、資料を見てわかった、例年の人気ぶりを見ても、なぜ、終了するのか疑問に思う。

(事務局)

そもそも、パートナーシップ会議の推進部会の提案で、もったいないバザールというのは事業化されて始まったものです。年を重ねるごとに推進部会の手から離れて、クリーンセンターの事業としてやっている状態です。フリマアプリとかそういう

ものが当たり前になってきたり、リサイクルショップに持っていくというので、使えるものが本当に出てこなくなって、もったいないバザールをするほどのいいものが残っていないということです。もう一つ大きな理由としまして、家庭系ごみの有料化というところで、令和3年度から持ち込みごみに対してもお金がかかってしまいます。そういったことから有料で引き取った持ち込みのリサイクルというのが、難しくなるということがあると報告が上がってきています。

(牧野委員)

私も推進部会に関わって、最初はやっていたのですが、クリーンセンターの方から、もう推進部会の人を手伝ってもらわなくていいですよという一方的な通告を受け、手を引くことになった。いろいろ理由はわかるけど、推進部会をやっていた立場としては、その検討も一緒にさせてほしかった。私たちはいろんな立場の人だから、いろんな意見が出せたかもしれない、そう思うととても残念だと思う。

(桑田委員)

あの時代でも、やっていた当初もそういうリサイクル業者とかあった。いろんな多種多様な企画があって当然だと思う。一

度市民の皆さんに聞いてみたらいいのではないかと思います。市の判断だけで決めちゃっていいのかという思いがしている。

(榊原委員)

考え方としては、お金とってもらったものを売るのかということになると、また別の問題が出てくるのではないかと思います。問題はクリーンセンターで焼却する施設はいつまで生きているのか。来年はまだ続くでしょう。再来年は向こうへ移るとばつと閉鎖か。

(事務局)

令和4年に知多南部環境センターができます。

(榊原委員)

4月からあれだけの施設のすべてが稼働なしになるのか。

(事務局)

燃えるごみの焼却はやらないですけど、リサイクルはやると聞いています。

(榊原委員)

来年まだクリーンセンターが4月以降あるのだから、その一年家具類は無償で引き取りますということにすれば、やろうと

いう気持ちがあればやれるのではないか。

(千頭会長)

確かに推進部会として立ち上げたのは事実なので、意見が出たということはクリーンセンターに伝えて頂いて、もしできればクリーンセンター所長に来ていただいて少しでもやりとりができたらいいと思いますので、その旨をお伝えください。

(事務局)

承知しました。

(千頭会長)

柱２の評価は、全体として「A」としてよろしいか。

《異議なし》

(千頭会長)

続いて、柱３に移ります。

特にご意見がなければ、柱３の評価は、全体として「A」としてよろしいか。

《異議なし》

(千頭会長)

続いて柱4に移ります。

(榊原委員)

雁宿公園のお店を設置してほしいというのを見て、私も思ったが、あそこにコンビニがあったけど、すぐやめてしまった。向こうがすぐ壊すという、すぐ閉めるという約束で建てたのか。

(事務局)

単純に申し上げますと売り上げがなかったということです。時間も短縮していった縮小して撤退してしまったということです。

(榊原委員)

よその市町で大きな公園には必ずと言っていいほど売店がある。雁宿公園の前のコンビニというのはちょうどいいと感じているので、市民の一人としてはやっぱりああいうところがあるといいという提案がしたい。

(千頭会長)

提案として入れましょう。

柱4の評価は、全体として「A」としてよろしいか。

《異議なし》

(千頭会長)

続いて、柱5に移ります。

エコ探検ツアーというのはそんなに応募者が少なかったのか。

(事務局)

市内で受け入れてくれる企業さんも少なく、リサイクル業者さんとかビオトープとかでやらせてもらっていたのですが、近年、やっぱりちょっと参加者が少なくなってきたところもありました。

(平林委員)

商工会議所でもそういう企業見学みたいなことを引き受けてくれるところもあるので、窓口を作っていただければつないでいけると思う。

(榊原委員)

P Rの関係は、環境課がやっている川や海の自然観察会のP Rの仕方と親子なんとかのP Rの仕方は同じような感じでやっているか。

(事務局)

同じです。自然観察会も市報とホームページだけ、親子のものに関しては市報とホームページと、プラスアルファで、前年度参加していただいた方とか、自然観察会の参加者にちらしも配らせてもらったりしています。

(牧野委員)

たぶん、口コミが違うのだと思います。半田市がやる自然観察会は市報に載ってはいるのですが、たぶん1回参加した人があれすごくよかったという話をして、じゃあ次は私も行きたいと勝手に口コミで楽しみが伝わる。企業の体験も何か楽しいことが一個あれば、ただ見るだけじゃなくて、何かあったら口コミで広がるかと思います。

(藤田委員)

教育委員会の許可が下りて、後援があれば学校でもチラシを配れる。

(千頭会長)

商工会議所とタイアップして、もちろん教育委員会とも一緒になれば、市内企業のPR、ひいては市内の企業への就職にもつながっていく話です。そこは何か新しい仕組みができれば

ば、可能性はあるような気はします。いろんな企業があるというのはひとつ半田の大きな特徴だと思いますので、提案にしておきましょうか。

柱5の評価は、全体として「B」としてよろしいか。

《異議なし》

(千頭会長)

全体を通じて、コメントをいただくことはありますか。

(藤田委員)

これを見ていて去年は気が付かなかったが、大気汚染や水質調査は、みんな半田市だけのことが書いてある。しかし、実際にはみんなつながっている。近隣の市町との連携は見えてこない。阿久比川の水質調査でも、半田市がこれをやっているというのはここから読み取れるが、阿久比町はどういうふうに行っているのか、一緒にはやらないのか。そんな関連性みたいなものがここには全然見えてこなくて、どんなふうに協力し合っているのか。同じ環境だと、臭気でもそう、線が引けるものではない。私は板山に毎日いますが、隣の阿久比や常滑がどのように取り組んでいるのか、そんなことを感じて、疑問に思った。ここに出てこないのは当然なのか。口頭でも情報があれば。

(事務局)

知多五市五町の環境部局で事務研究会というのを年に1回必ずやっています。そういったところで、各市町の課題とかを出し合って情報交換ですとか、連携とかを図るそういうものもあります。一応そういうところで課題を出し合って連携しているということです。

(藤田委員)

何か一緒に事業をしようとするとお金が絡みますよね。出し合うとかそういうこともあるのか。

(事務局)

今は一緒に事業をやるというところまでは、できてはいません。情報交換ということです。

(千頭会長)

今の令和元年度の実績評価については今日のご意見で少し文書を作っていただいて皆さんにお配りをして、最後に提言いただくということによろしいですか。

《異議なし》

	(千頭会長) 議題２に移ります。
	(２) 第２次半田市環境基本計画の策定スケジュールについて —事務局資料に沿って説明— (千頭会長) そもそも出発点のところで、庁内で今の計画の達成度の評価をするということはやらないのか。 (事務局) 基本的に昨年度このパートナーシップ会議で行って頂きました評価をもとに、作業を行っておりますので、そういったご意見は庁内部会を立ち上げたときに材料として、基本的事項として用いていきたいと思っています。 (近藤委員) 委託業者が中心となってやっていくのだが、自治体での実績はあるか。そういうところが入ってきて、私たちの計画していることを業者が原稿を作るというか、庁舎内でいろいろ議論してやっていくのかというところで、実績がよくわからないが。 (事務局)

実績はかなりある業者でございまして、本社が京都の方でございまして、向こうの方では実績があります。愛知県内では少ないところではございますが、確か東海市の方では実績がございまして。議論はしっかり、審議会なり、策定委員会なり、それから庁内部会で行って作業については委託業者に行ってもらって進めてまいります。

(近藤委員)

作業というのは、市の職員がやれることを業者がやるという意味か、調査が中心になってくるのか。

(事務局)

調査ですとか、会議の取りまとめです。基本的事項というのは、それぞれの会議で決定してその後の作業を委託業者が行う、また、これについて調べてまとめてくださいということもあります。

(近藤委員)

そうすると、市民からこの会でもいろいろな要望が出ます、その調査をやるのですが、基本的には委託業者というのがやって、市の職員はその経過とか、実際の現場の問題点の把握が十分できないということ、結果を聞くという形なのか。

(事務局)

そういうことではなくて、市の職員の経験を活かし、市民からいただいたご意見も、しっかり反映させてということで進めます。

(榊原委員)

この委託業者の担当と直接よく話し合う担当はどこなのか。

(事務局)

環境課の環境政策担当です。

(榊原委員)

それでは話は直接できるということ。例えば、具体的に6月に温室効果ガス排出量の算定方法の検討というのがある。検討というのは、すでに算出方法を誰かがもう提案されてそれを検討するのか、その検討案を作るのか、その検討案はどこが最初に作るのか。

(事務局)

この議論につきましては私どもと委託業者でもってこれまでの数値等を検討して、これまで通りで出したらどうでしょうと、独自で数値を半年間かけて出すとかそういったことについて

ては、やはり難しいでしょうということで、今のところそういった方向でおりますが、審議会なり、策定委員会なりへお諮りをしましてご意見をいただいて決定をする予定です。

(榊原委員)

もうすでに委託業者と算出方法については、環境課とは話し合われて、今まで通りしかしょうがないという結論になったということですか。

(事務局)

今のところはです。

(澤田委員)

市のレベルでの温室効果ガスの算定をするのに必要なデータとして、どれだけ市内で電気が使われているか、ガスが使われているか、そういうデータの収集をするときに、これまでのやり方ですと国の統計から引っ張ってきて都道府県ごとに分かれたデータはあるので、それを引いてきて、それを県内の各市に按分してということを出したと思うが、その按分の仕方が本当に半田市の使っている分になるのかどうかというところが課題にはなってくると思う。国のデータから県レベル、市レベルに引っ張ってきてということで、これまでやってきているが、市

で使われているのは、他の方法でダイレクトに把握することはできないのかというような疑問も皆さん持たれている印象を受けた。ただ、これまで電力・ガスが自由化されるまでは、中部電力、東邦ガスという地域の電力会社、ガス会社に聞けば、市内分としてデータを出してくれるというところがあったのだけど、自由化していろんなところが参入しているという状況になって、なかなか一社に聞いてもわからないというような状況になってきたというのがあって、統計から結ぶしかしょうがないというような話になってきているというふうに今話を聞いていて感じたところだが、確かに統計を引っ張ってきて本当に実状を把握していることになるのかというところは、素直に考えるとちょっと疑問に思うところはあると思う。だから、他に方法がないかどうかというのは、複数案考えて検討の結果でどうしたらいいのかというようなところは、議論していく必要はある。初めから統計ありきということで進めてしまうと市民の納得は得られないと感じたところである。

(榊原委員)

たぶん、よその市町も按分方法でやっているのだから、半田市もいいのではないかという安易な簡単な楽な考え方だ。だけど、やっぱりこの数値は信用できない。大まかもいいところで

す。どっちみち大まかならば、抽出世帯でやってそれを拡大する方法だってあるではないか。どっちが誤差が多いのか、そういうことを一回検証しなければいけないと思う。どれだけを抽出するかは問題だが、あるいは東邦ガスだけ、中電だけのトータルで他のところ関係なく、それを半田市に広めてやったのと、どっちが誤差が多いのか、少ないのか、それを専門委員会に諮って比較しなければいけない。そういう時期ではないか。それを、よその市町も結局こういうことをしているから、これでいいというような、安易な考え方は非常に発展性がない。

(千頭会長)

例えばエコファミリーをせっかく選定をしているわけだから、エコファミリーにその家庭でのエネルギーの使用状況、それからできたら車も大きな課題なのですが、実際に車にどれぐらい乗っているのかというふうなことを、環境家計簿を何か月間かつけていただいて、そこからいったん、今のお話の一つのやり方ですね、もちろん無作為に抽出ということもあるのだけれど、そういうやり方は今の話だととらないということだということですね。

(榊原委員)

方法はいくつかあることを紹介したうえで、それで比較検討すると、今までどおりが一番やっぱりいいという結論ならいいけれど、一回も試さないで置いて、たぶんこうだろう、たぶんこうだから今まで通りが一番いいなどというのは、今まで通りの数値なんか全然だめである。

(千頭会長)

実は悩ましいのがすごくいっぱいあって、例えばクリーンセンターがなくなります。半田市にとってみて、半田市で計算するとクリーンセンターで出していたCO₂はなくなるのです。だけどそれは武豊では、さらに南部の全てのCO₂をまとめて出すことになって、なかなかCO₂の問題は、一つの小さな市町村だけで増えた、減っただけで議論しては、このごみの話が非常にいい例ですね、計算したら半田市はたぶんごみを自分のところで燃やさなくすむわけだからその分減る。それを半田市として減りましたと言うだけでいいのかという議論はすごく難しいし、あるいはバイオマスも半田市内のごみからだけバイオマス発電したらそれはそれでクローズドで評価しやすいのだけど、遠くからチップを運んできて半田市内で電気を起こすのをどう評価したらいいか、船でエネルギーをかけて運んできてい

るわけですから。だから、実はすごく難しい、本当はそういう

のをちゃんと議論して半田市ではこういうやり方をやらざるを得ない、とりましょうという最初の議論がすごく大事なんですけど、たぶんこれだけ見ていると、なにかレールの上で走るだけに読めてしまうから、余計今のご指摘が出てくるかもしれない。

(榊原委員)

たぶんそういう議論も若干あったとは思いますが、それが全然見えてこない。皆さんの努力があったかどうかも見えてない。

(千頭会長)

パートナーシップ会議は、環境基本計画の推進のために、我々組織としては評価をしているわけです。それがこれから我々はどういう働きをするのかということのも何も見えてこないし、ちょっとそこは、スケジュールだけが出てくると、事務的にはそうなのでしょうけど、次回このパートナーシップ会議はいつでしたか。

(事務局)

８月２８日です。

	(千頭会長) その時には、ぜひとも審議会と策定委員会の議論、今のよう な話も含めて、議論の結果も少し、時間の制約もあるけど今度 報告をいただいた方がいいですね。 次に移ります。
	(3) その他について (事務局) 会議録が作成できましたら内容のご確認の依頼をさせていただきます。 本日頂きました意見は、次回の会議前に委員の皆様 に提示をさせていただきます。 次回会議は、8月28日(金) 9:30からを予定していま す。 議題は、「令和元年度の実績提案」「ポスターコンクールの 選考」、併せて新しい環境基本計画の進捗についてご報告がで ければというふうに思っております。 (千頭会長) 以上をもって会議終了。